

# X-point

**Google Workspace 連携サービス**

**導入・設定ガイド**

2026/02/01 版



## はじめに

### ◆本書の目的

本書は、X-point と Google Workspace を連携するためのオプション製品「Google Workspace 連携サービス」導入・設定手順を説明しています。本書の内容をよくお読み頂いた上で、運用を行なってください。

### ◆対象とする読者

本書は「X-point」のシステム管理者を対象としています。システム管理者とは「X-point」を運用するにあたり必要な設定および基本データの作成、維持管理を行なう本システムの管理権限を持つユーザを指します。

### ◆対応バージョン(2026/02/01 時点)

X-point	備考
X-point v3.13	「セキュリティ基本サービス」が必須になります。

### ◆製品名について

本書中、「X-point サーバー」は「X-point」と表記しています。  
また、各製品の名称は対応バージョンを省略してある箇所もありますのでご了承ください。

### ◆商標について

本書の一部、または全部を著作権所有者の許諾なしに、商用目的の為に複製、配布することはできません。  
X-point、エクスポイントの名称およびロゴは株式会社エイトレッドの商標または登録商標です。  
Microsoft、MS-DOS、Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。Macintosh、MacOS は Apple Computer, Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。Adobe、Acrobat、Adobe Acrobat は Adobe Systems, Inc.の商標または登録商標です。Google、Google ロゴ、Google Workspace、Google Workspace Marketplace は、Google Inc.の登録商標または商標です。

### ◆Google Workspace の設定に関する説明について

本書で説明する設定手順は 2021 年 11 月 16 日時点の手順となります。Google Workspace 側の画面変更などにより異なる可能性があります。設定画面が異なる場合は、同一項目名での操作、もしくは弊社サポートまでご確認ください。

### ◆製作著作

©2025 株式会社エイトレッド

## 目次／索引

1.	概要	4
1.1.	Google Workspace 連携について	4
1.2.	制約事項	5
1.2.1.	Google Developers Console への登録	5
1.2.2.	オプションライセンスの適用 ~ Google Workspace 連携サービス	5
1.2.3.	ブラウザ環境の制約	5
1.2.4.	その他制約事項	6
1.3.	サポートポリシー	7
1.3.1.	サポート範囲	7
1.3.2.	サポート範囲外	7
2.	事前準備	8
2.1.	システム日時(タイムゾーン)の設定	8
3.	Google Developers Console の認証情報設定	9
3.1.	事前準備	9
3.2.	作業者のアカウントについて	9
3.3.	Google Developers Console の認証情報設定	10
3.3.1.	Google Developers Console へのログイン	10
3.3.2.	プロジェクトの作成	10
3.3.3.	同意画面の設定	11
3.3.4.	クライアント ID、クライアントシークレットの入手	12
4.	X-point 側の連携設定	15
4.1.	シングルサインオンの設定	15
5.	ユーザアカウントの準備	16
5.1.	Google Workspace と X-point のユーザ情報	16
5.2.	ユーザ情報管理の注意点	17
5.2.1.	組織構成の管理	17
5.2.2.	ユーザ情報の一括登録(インポート)	17
5.2.3.	ユーザ情報のパスワードについて	17
6.	Google 側のコンテンツ設定	18
6.1.	Google サイトへの URL リンク設置	18
6.1.1.	リンク用 URL の確認	18
6.1.2.	Google サイトでのリンク設定	20
7.	シングルサインオンの利用	23
7.1.	Google サイトへログインして連携を利用	23
8.	その他の機能	25
8.1.	ガジェットの導入	25
8.1.1.	ガジェットのコンテンツを表示させるためには	25
8.1.2.	ガジェット用 URL の確認	26
8.1.3.	Google サイトでのガジェット導入	28
8.1.4.	ガジェットについて	33
9.	困ったときは	35
9.1.	Google Workspace から X-point の画面が表示されない	35
9.1.1.	「現在、X-point をご利用いただくことができません。」と表示される	35
9.1.2.	「連携設定情報の Google Workspace ドメイン名が正しくない可能性があります。」と表示される	35
9.1.3.	「連携が許可されていない Google Workspace ドメインです。」と表示される	35
9.1.4.	「指定したドメインでは Google Workspace 連携が許可されていません。」と表示される	35
9.1.5.	「指定したドメインが X-point に存在しない。または、連携設定が未設定の可能性があります。」と表示される	35
9.1.6.	「X-point に連携ユーザが存在しません。」と表示される	35
9.1.7.	「401. That's an error. Error: invalid_client」と表示される	35
9.1.8.	「Google Workspace 連携設定のクライアントシークレットに誤りがないかご確認ください。」と表示される	35
9.1.9.	「400. That's an error. Error: redirect_uri_mismatch」と表示される	35
9.2.	ガジェットに X-point のコンテンツが表示されない	36
9.2.1.	何も表示されない、または「このコンテンツはフレーム内で表示できません」と表示される	36
9.2.2.	ガジェットに「Google Workspace のユーザ情報が取得できませんでした」と表示される	36
9.3.	Google Workspace サービスに関して	37
9.3.1.	Google Workspace のサービスが利用できない	37
9.4.	連携設定後に X-point の URL を変更する場合の対応方法が分からない	37
9.4.1.	Google Developers Console の認証情報設定の修正	37
9.4.2.	Google サイトに設置したコンテンツの Google Workspace 連携の URL の修正	37

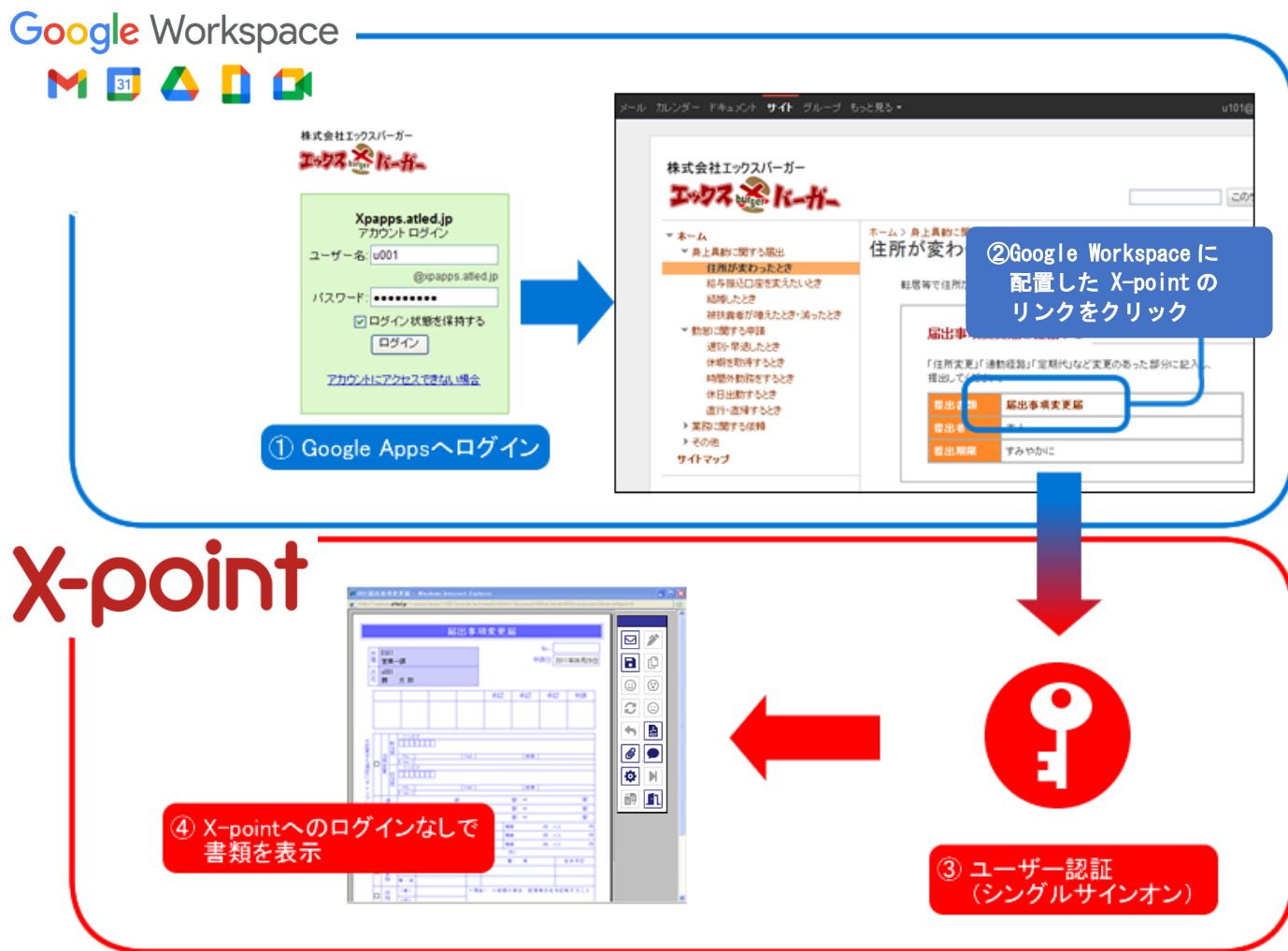
# 1. 概要

この章では、Google Workspace 連携サービスによる連携の概要について説明します。

## 1.1. Google Workspace 連携について

Google Workspace 連携サービスを導入することによって、Google Workspace から X-point へログイン操作することなく利用することが可能になります(シングルサインオン)。連携の認証には Google OpenID Connect の仕組みを用います。

### ▼連携イメージ



## 1.2. 制約事項

---

Google Workspace 連携サービスをご利用いただくための制約事項を説明します。

### 1.2.1. Google Developers Console への登録

連携の設定を行う上で、「Google Developers Console」で以下を行う必要があります。

- リダイレクト URI の登録 … Google の認証後にアクセスする X-point の URI を登録します
- クライアント ID の入手 … X-point 側の連携設定に必要な認証情報です
- クライアントシークレットの入手 … X-point 側の連携設定に必要な認証情報です
- 同意画面の設定 … 初回連携時に Web ブラウザ上に表示される同意画面を設定します

### 1.2.2. オプションライセンスの適用 ~ Google Workspace 連携サービス

Google Workspace 連携はオプション機能です。ご利用にはライセンスの購入が必要です。オプションライセンスを購入することで以下機能が利用出来るようになります。

- ・ Google Workspace とのシングルサインオンの設定画面(管理者サイト)
- ・ Google Workspace とのシングルサインオン
  - Google サイトに X-point のページ(TOP ページ、フォーム)のリンクを配置して直接開く
  - Gmail で X-point からの通知メールのリンクから書類を直接開く
  - Google Workspace のガジェットに X-point のコンテンツを表示させる。  
(注意: Gmail 画面には X-point のコンテンツを表示させる事は出来ません)

### 1.2.3. ブラウザ環境の制約

X-point と Google Workspace 両方に対応したブラウザを使用して下さい。

## 1.2.4. その他制約事項

### ● 連携できるドメイン

X-point の一つのドメインから指定できる Google Workspace ドメインは一つだけです。複数の Google Workspace のドメインを連携することはできません。複数の X-point のドメインにて、それぞれに対応した異なる Google Workspace のドメインを指定することは可能です。

### ● X-point へのログイン、ログアウト

- 1) X-point フロントサイトからのログインはできません。  
Google Workspace 連携設定を行ったドメインでは、X-point フロントサイトからの単独ログインはできません。  
Google Workspace でのユーザ認証を必ず行う必要があります。  
Google Workspace サービスが利用できない場合等、単独での利用を行う場合は連携設定を一時的に解除してください。
- 2) 管理サイトへのログイン方法  
Google Workspace 連携設定を行った環境は X-point のフロントサイトにログインした場合、管理者権限のあるユーザのヘッダーメニューに「管理者メニューへ」のリンクが表示され、管理者サイトへログイン操作なしに遷移することができます。  
また、管理者権限のあるユーザは、X-point の個人設定やユーザ管理で設定したパスワードを使って、管理者サイトのログイン画面から直接ログインすることもできます。
- 3) X-point のログアウト  
Google Workspace 連携を利用して X-point にログインした場合、X-point のヘッダーメニューに「ログアウト」のリンクは表示されません。

### ● eFormMaker の利用

eFormMaker から X-point に接続する場合、X-point フロントサイトの【個人設定】から接続に利用する X-point ユーザにパスワードを設定する必要があります。管理者が管理者サイトのユーザ管理画面からパスワードを設定することも可能です。

#### ！注意事項

eFormMaker からの接続時に Google Workspace アカウントのパスワードでの認証はできません。

### ● 画面動作の制限事項

Google Workspace から X-point の画面へ遷移する場合、遷移中を表す以下のメッセージが画面に表示されます。  
「Redirecting you to <http://nnn.nnn.nnn.nnn/xpoint/googleAuth?domain=example>」

また、認証処理の関係で応答が返るまで時間がかかる(5 秒以上)場合があります。

#### ！注意事項

認証処理の処理時間はサーバーの性能やネットワーク速度に左右されます。

### ● ユーザアカウント情報について

Google Workspace 連携を行うためには、X-point と Google Workspace の双方に登録されたユーザ情報の「ログイン ID(X-point)」と「ユーザ名(Google Workspace)」を一致させる必要があります。

ユーザ情報の入力方法は下の方法で行うことができます。

- 1) X-point、Google Workspace の管理画面で直接ユーザ情報を編集する。
- 2) X-point でユーザ情報を CSV ファイルでエクスポートし、Google Workspace に一括でインポートする。
- 3) Google Workspace でユーザ情報を CSV ファイルでエクスポートし、X-point に一括でインポートする。

※インポート・エクスポートする CSV のフォーマットは、Google Workspace と X-point で異なるので、エクスポートした CSV ファイルを編集する必要があります。

### ● Google Workspace のエディションについて

「Open ID Connect」の利用が可能なエディションを選択してください。

※ 2020/10/01 時点で提供されているエディションは全て利用が可能です。

## ● Google 社のサービス変更に伴う設定変更作業について

X-point では、Google 社が提供するサービスを利用してシングルサインオンを実現しています。連携設定後、サービス終了や連携方式の仕様変更等が発生した場合、連携設定の追加・変更作業が発生することがあります。

## 1.3. サポートポリシー

---

### 1.3.1. サポート範囲

Google Workspace 連携サービスをご利用にあたり、以下の事項は「ライセンスサービス」に準拠した対応を行います。

- ・ X-point Google Workspace 連携サービスの設定、使い方に関する質問
- ・ Google Workspace が正常に動作している場合において、シングルサインオンが正常に動作しない場合の一次切り分け

※ Google Workspace 連携サービスを利用した活用事例のご案内につきましては「ライセンスサービス」にてご案内が困難な場合がございますことをご了承ください。

### 1.3.2. サポート範囲外

以下の事項については「ライセンスサービス」でのサポート範囲外とし、X-point サポートセンターでは一切のご回答をいたしかねます事を予めご了承ください。ご契約先の Google 社へお問い合わせくださいますようお願いいたします。

「1.3.1. サポート範囲」における質問で切り分けの結果で該当する場合も同様とさせていただきます。

- ・ Google Workspace サービスの稼働状態、SLA に関する質問
- ・ Google Workspace サービスおよび機能の利用方法に関する質問
- ・ Google Workspace サービスの停止や不具合に起因した質問および問題解決
- ・ Google Workspace の仕様変更 に起因した機能動作に関する質問および問題解決

## 2. 事前準備

この章では、Google Workspace 連携の連携設定を行うための事前準備について説明します。

### 2.1. システム日時(タイムゾーン)の設定

X-point Web サーバーのタイムゾーンおよびシステム日時を Google Workspace と一致させます。

<確認手順（タイムゾーンを日本とする場合）>

- 1) Google Workspace のタイムゾーン設定を確認します。  
管理者でドメイン管理画面にログインして、ドメイン>会社プロフィール>プロフィール>タイムゾーンが「(GMT+09:00)東京」であることを確認します。異なる場合は「(GMT+09:00)東京」に設定してください。



## 3. Google Developers Console の認証情報設定

本章では、Google Developers Console の認証情報の設定と「クライアント ID」「クライアントシークレット」の入手方法について説明します。

### 3.1. 事前準備

Google Developers Console で設定する認証情報として、X-point への「リダイレクト URI」が必要になります。  
以下の X-point の Google Workspace 連携設定画面からご確認いただけますので、予め「リダイレクト URI」を控えておきます。

【X-point の Google Workspace 連携設定画面】

X-point 管理者サイト>ドメイン管理>ドメイン設定>Google Workspace 連携

基本情報	
連携	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
Google Workspaceドメイン ① 半角英数/記号。	<input type="text"/>
クライアント ID ① 半角英数/記号。	<input type="text"/>
クライアントシークレット ① 半角英数/記号。	<input type="text"/>
ユーザーサイト個人設定へのガジェット用URL表示	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する

Google Workspace連携用URLサンプル	
Google Workspace連携用URL	<input type="text" value="https://example.com/xpoint/googleAuth"/>
リダイレクト URI	<input type="text" value="https://example.com/xpoint/googleAuth"/>
新規書類提出	--フォームグループ-- <input type="text" value="https://example.com/xpoint/googleAuth?domain=example&amp;formId={フォームID}"/>

### 3.2. 作業者のアカウントについて

Google Developers Console の設定情報は、Google の1アカウントユーザと紐付きます。  
従って、ここで行う作業は“Google Workspace の管理者”で実施することを推奨します。

- 担当者が変更になる場合は？
  - 1) 担当者が変わる、アカウントを削除する場合は、本書の「Google Developers Console の認証情報設定」の手順を後任者のアカウントで再度実施します。
  - 2) 新たに入手した「クライアント ID」「クライアントシークレット」で X-point の連携設定を更新してください。

### 3.3. Google Developers Console の認証情報設定

#### 3.3.1. Google Developers Console へのログイン

1) ブラウザを起動し、以下の URL にアクセスします。

- <https://console.developers.google.com/>

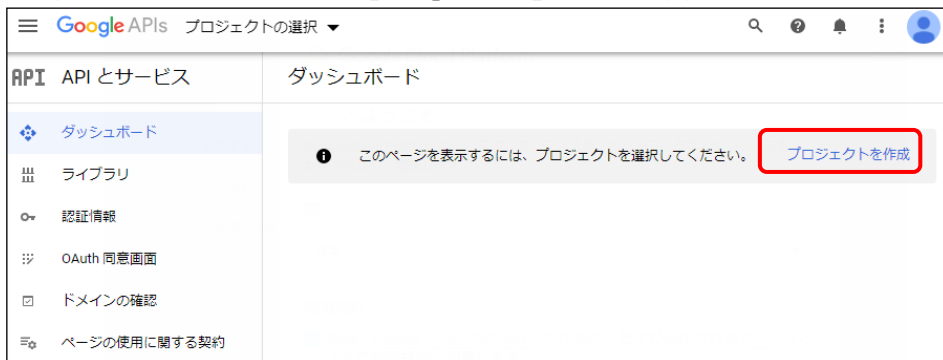
2) 連携する Google Workspace の管理者でログインします。

初回ログインの場合は同意画面が表示されますので任意の値を選択肢、進めます。



#### 3.3.2. プロジェクトの作成

1) 次に、ダッシュボードの「プロジェクトを作成」のリンクをクリックします。



- 2) 「プロジェクト名」に任意の名称("X-point"など)を入力し、[作成]ボタンをクリックします。  
(組織、場所は初期値のままです)

新しいプロジェクト

プロジェクト名 \*

プロジェクト ID: eloquent-region-301104。後で変更することはできません。 [編集](#)

組織 \*

プロジェクトに関連付ける組織を選択します。この選択を後で変更することはできません。

場所 \*

[参照](#)

親組織またはフォルダ

[作成](#) キャンセル

### 3.3.3. 同意画面の設定

- 1) API とサービスメニューの「OAuth 同意画面」をクリックすると Google Auth Platform に遷移するので、[開始]ボタンをクリックします。  
※OAuth 同意画面は Google Auth Platform という専用のナビゲーションセクションに変更されました。

Google Auth Platform / 概要

概要 OAuth の概要

ブランディング

対象

クライアント

データアクセス

検証センター

Google Auth Platform はまだ構成されていません  
アプリケーションの ID を構成すること、および Google API の呼び出しと Google でログインのための認証情報を管理することを開始します。 [詳細](#)

[開始](#)

- 2) アプリ情報の登録に遷移しますので、「アプリ名」「ユーザーサポートメール」を入力し[次へ]ボタンをクリックします。

プロジェクト構成

1 アプリ情報

アプリ名 \*

同意を求めるアプリの名前

ユーザー サポートメール \*

同意に関して問い合わせる際に使用します。 [詳細](#)

[次へ](#)

2 対象

項目	入力内容
アプリ名	任意の名称("X-point"など)を入力します。
ユーザーサポートメール	同意に関して問い合わせる際に使用します

- 3) 対象は「内部」を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

1 アプリ情報

2 対象

内部 [?](#)

組織内のユーザーのみが使用できます。確認を受けるためにアプリを送信する必要はありません。 [ユーザーの種類の詳細](#)

外部 [?](#)

Google アカウントを持つすべてのテストユーザーが使用できます。アプリはテストモードで起動し、アプリを使用できるのは、テストユーザーのリストに追加されたユーザーに限られます。アプリを本番環境に移す準備ができれば、アプリの確認が必要となる場合があります。 [ユーザーの種類の詳細](#)

3 連絡先情報

- 4) 連絡先情報にメールアドレスを入力し[次へ]ボタンをクリックします。

1 対象

3 連絡先情報

メールアドレス \*

これらのメールアドレスは、プロジェクトの変更について Google からお知らせするために使用します。

4 終了

- 5) 最後、ポリシーに同意するチェックを行い[続行]ボタンをクリックした後、[作成]ボタンをクリックします。

4 終了

[Google API サービス: ユーザーデータに関するポリシー](#) に同意します。

キャンセル

### 3.3.4. クライアント ID、クライアントシークレットの入手

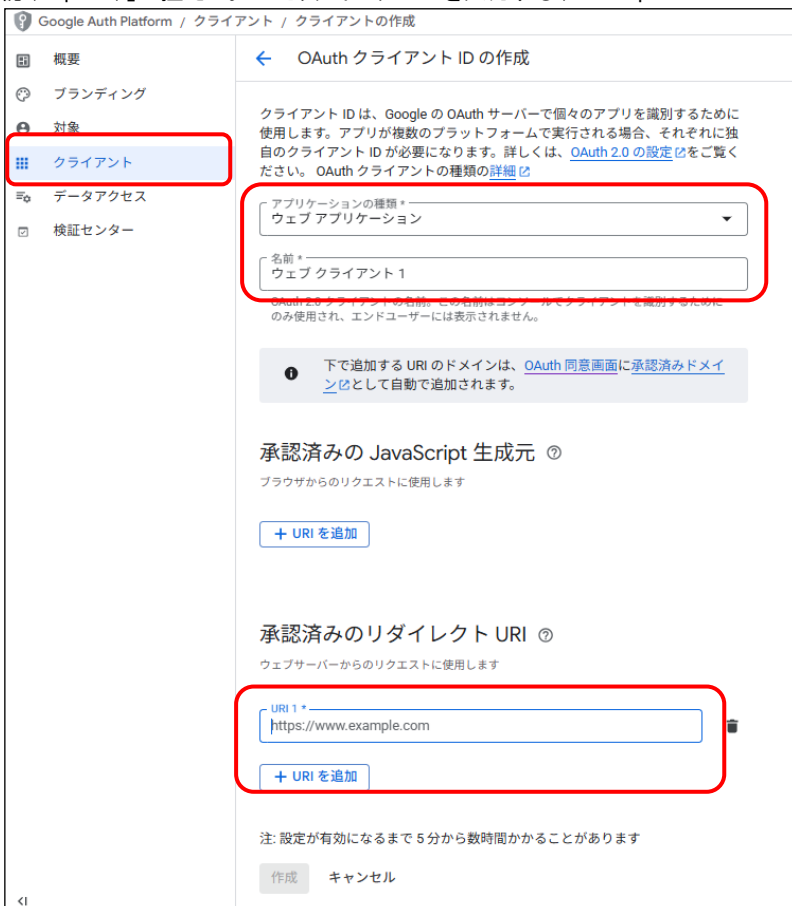
- 1) Google Auth Platform メニューの「ブランディング」をクリックし、下部、承認済みドメインから[ドメインの追加]をクリック、X-point サーバーのドメインを入力したら[保存]ボタンをクリックします。



- 2) OAuth クライアント ID の作成で「アプリケーションの種類」「名前」「承認済のリダイレクト URI」を設定し、[作成]ボタンをクリックします。



- 3) アプリケーションの種類から「ウェブアプリケーション」を選択し、任意の名前を設定。承認済みリダイレクト URI に「リダイレクト URI の確認(X-point)」で控えておいたリダイレクト UI を入力する(~/~/xpoint/mailOAuthCallback.do)





## 4. X-point側の連携設定

この章では、X-point 側で行う Google Workspace 連携の設定方法について説明します。

### 4.1. シングルサインオンの設定

X-point と Google Workspace のシングルサインオン設定を行います。設定は X-point のドメインごとに行います。この操作は X-point の「スーパーユーザ」または「ドメイン管理権限」を持つユーザで管理者サイトにログインし、「Google Workspace 連携設定画面」で連携設定を行います。

- 1) 「ドメイン」 → 「サブメニュー:ドメイン設定」から「Google Workspace 連携設定画面」を開きます。
- 2) 「Google Workspace 連携設定画面」で連携情報を設定します。

#### 【Google Workspace 連携設定画面】

ドメイン管理 → ドメイン → フォーム関連情報 → メール設定 → ログ → 定義書出力

Google Workspace連携設定  
Google Workspace連携情報を修正します。

基本情報

連携  しない  する

Google Workspaceドメイン  
① 半角英数/記号。

クライアント ID  
① 半角英数/記号。

クライアントシークレット  
① 半角英数/記号。

ユーザサイト個人設定へのガジェット用URL表示  しない  する

Google Workspace連携用URLサンプル

Google Workspace連携用URL `https://example.com/xpoint/googleAuth?domain=example`

リダイレクトURI `https://example.com/xpoint/googleAuth`

新規書規提出 --フォームグループ-- --フォーム--  
`https://example.com/xpoint/googleAuth?domain=example&formId={フォームID}`

ワークフローガジェット  
新しいGoogleサイト用  
`https://example.com/xpoint/googleAuth?domain=example&gadgetId=wkfl`   
以前のGoogleサイト用  
`https://example.com/xpoint/google/xml?domain=example&gadgetId=wkfl`

グラフガジェット  
新しいGoogleサイト用  
`https://example.com/xpoint/googleAuth?domain=example&gadgetId=chart&queryCd={クエリコード}`   
以前のGoogleサイト用  
`https://example.com/xpoint/google/xml?domain=example&gadgetId=chart&queryCd={クエリコード}`

設定項目	説明
連携	Google Workspace 連携機能を使用する・使用しないを切り替えることができます。「する」を選択します。
Google Workspaceドメイン	Google Workspace のドメイン名を入力します。 Google Workspace のメールアドレスの@より後の文字列(例: user1@example.com →"example.com")
クライアント ID ※	「OpenID Connect」用の設定項目です。 Google Developers Console で作成した「クライアント ID(CLIENT ID)」を入力します。
クライアントシークレット ※	「OpenID Connect」用の設定項目です。 Google Developers Console で作成した「クライアントシークレット(CLIENT SECRET)」を入力します。
ユーザサイト個人設定へのガジェット用 URL 表示	Google Workspace ガジェットの連携 URL をユーザが個人設定画面から確認できるようにします。 連携の疎通がとれていない初期設定の段階では「しない」に設定しておきます。

- 3) 入力後は保存ボタンを押下して設定を保存してください。

※「Google Workspace 連携用 URL サンプル」の欄は設定時に意識する必要はありません。

## 5. ユーザアカウントの準備

この章では連携を行うにあたり準備するユーザ情報について説明いたします。

### 5.1. Google Workspace と X-point のユーザ情報

Google Workspace とシングルサインオンを行う X-point のユーザは連携先として指定された Google Workspace ドメインの「ユーザ名」と X-point 側に登録されているユーザ情報の「ログイン ID」を一致させます。

X-point 管理者サイトの「ユーザ新規作成画面」をもとに、ユーザ情報の注意点を以下に示します。

※ その他入力項目については「管理者機能マニュアル」の「5.4.ユーザの設定」の項をご参照ください。

#### 【ユーザ新規作成画面】

The screenshot shows the 'ユーザ管理' (User Management) interface. The breadcrumb trail is: ユーザ管理 > 組織 > ユーザグループ > 役職 > ユーザ > インポート > エクスポート. The page title is 'ユーザ「勝 太郎①」の修正' (Edit User '勝 太郎①'). There are links for '検索結果に戻る' (Return to search results), 'ユーザ検索' (Search users), and '作成' (Create). The main instruction is 'ユーザアカウントを修正します。' (Edit the user account.) with a link 'このユーザが登録されている設定を表示' (Show settings for this user). Below is a '基本情報' (Basic Information) table:

基本情報		
ユーザコード	u001	半角英数100文字以内 (インポート時にユーザを指定するキーになります)
氏名	勝 太郎	
カナ	カツ タロウ	
ログインID ◎ 半角1-50文字、 英数字及び一部の記号 ( _ . @ * ) が使用できます。	u001	
パスワード	.....	
パスワード 再入力	.....	
メールアドレス		

#### 【氏名】

ユーザの氏名を入力します。入力内容は任意ですが、Google Workspace アカウントの氏名と合わせることを推奨します。

#### 【ログイン ID】

Google Workspace 連携認証に使用します。Google Workspace アカウントのユーザ名(@より前の文字列)を入力します。  
( 例: [u001@example.com](mailto:u001@example.com) ⇒ u001 )

#### 【パスワード】

Google Workspace 連携認証では使用しません。

管理者ユーザ (eFormMaker を使用するユーザを含む) については、X-point 管理者サイトのログイン画面から直接ログインすることができますので、必ず個別のパスワードを設定してください。

#### 【メールアドレス】

X-point の通知メールを受け取るための任意のメールアドレスを入力してください。(必須ではありません)  
通知メールを Gmail で受信した場合、シングルサインオンで書類を開くことができます。

## 5.2. ユーザ情報管理の注意点

---

### 5.2.1. 組織構成の管理

部署(ユーザグループ)、役職情報はワークフローをまわすための組織構成を X-point 側で登録し管理を行ってください。

### 5.2.2. ユーザ情報の一括登録(インポート)

Google Workspace で出力したユーザ情報(CSV 形式ファイル)を X-point へ直接インポートする機能は現状ありません。X-point のインポート機能を利用する場合は、X-point で取り込めるフォーマットに変換を行ってください。

### 5.2.3. ユーザ情報のパスワードについて

Google Workspace 連携利用時には Google Workspace にて認証を行いますので、X-point のパスワードは設定せずに X-point が利用できます。

連携時には X-point のフロントサイトから直接ログインができません。

万が一 Google Workspace が利用できない場合に X-point を単独で利用する場合は Google Workspace 連携を行わない設定に変更することで X-point のフロントサイトから直接ログインを行うことが可能となります。この場合、X-point 側でのパスワード設定が必要となりますので、緊急時の単独利用に備えたパスワードを事前に設定しておく事を推奨いたします。

## 6. Google側のコンテンツ設定

この章ではシングルサインオンで X-point のページを利用するための Google Workspace 側の設定について説明します。

### 6.1. Google サイトへの URL リンク設置

Google Workspace から X-point をシングルサインオンで利用するには、特定のアクセス用 URL を利用します。  
URL は X-point 管理者サイトにて Google Workspace 連携用の URL 表示がありますので、参照して貼り付けを行います。

#### 6.1.1. リンク用 URL の確認

X-point の管理者サイトへログインして、Google Workspace 連携用 URL を事前に確認します。  
Google Workspace 連携用 URL はドメイン管理で確認します。

- 1) X-point 管理者サイトへアクセスして、スーパーユーザまたはドメイン管理者でログインを行います。
- 2) 「ドメイン管理」→「Google Workspace 連携設定画面」を開きます。  
「ドメイン管理」の上部メニューの「Google Workspace 連携設定」リンク、またはドメイン設定変更画面の「Google Workspace 連携設定」リンクから遷移することができます。
- 3) 「Google Workspace 連携設定画面」の「Google Workspace 連携用 URL サンプル」を参照します(コピーしておくで便利です)

#### 【Google Workspace 連携設定画面】

ドメイン管理		→ドメイン	→フォーム関連情報	→メール設定	→ログ	→定義書出力
Google Workspace連携設定						
Google Workspace連携情報を修正します。						
基本情報						
連携	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する					
Google Workspaceドメイン ○ 半角英数/記号。	example.com					
クライアント ID ○ 半角英数/記号。	123456-8l5sgm6ihr60s3jfh6eqjfkcoi3lsod.apps.googleusercontent.com					
クライアント シークレット ○ 半角英数/記号。	123456msCNAZ8NNp2kkmhvaq					
ユーザー個人設定へのガジェット用URL表示	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する					
Google Workspace連携用URI サンプル						
Google Workspace連携用URL	https://example.com/xpoint/googleAuth?domain=example <input type="button" value="コピー"/>					
リダイレクト URI	https://example.com/xpoint/googleAuth <input type="button" value="コピー"/>					
新規書類提出	--フォームグループ--	--フォーム--	https://example.com/xpoint/googleAuth?domain=example&formId={フォームID} <input type="button" value="コピー"/>			
ワークフローガジェット	新しいGoogleサイト用					
	https://example.com/xpoint/googleAuth?domain=example&gadgetId=wkfl <input type="button" value="コピー"/>					
グラフガジェット	以前のGoogleサイト用					
	https://example.com/xpoint/google/xml?domain=example&gadgetId=wkfl <input type="button" value="コピー"/>					
グラフガジェット	新しいGoogleサイト用					
	https://example.com/xpoint/googleAuth?domain=example&gadgetId=chart&queryCd={クエリコード} <input type="button" value="コピー"/>					
グラフガジェット	以前のGoogleサイト用					
	https://example.com/xpoint/google/xml?domain=example&gadgetId=chart&queryCd={クエリコード} <input type="button" value="コピー"/>					

#### 【Google Workspace 連携用 URL】

X-point の TOP ページへのリンクです。

(URL の形式)

https:// {ホスト名} /xpoint/googleAuth?domain= {X-point ドメインコード}

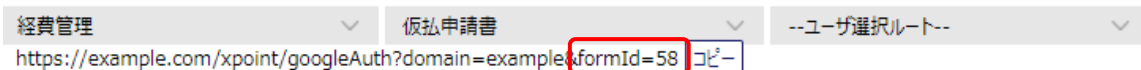
## 【新規書類提出】

X-point のフォーム画面を新規で開くためのリンクです。

(URL の形式)

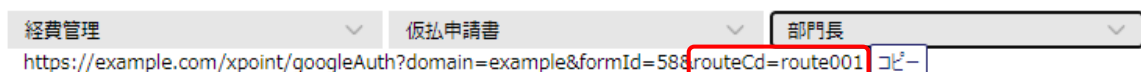
```
https://{ホスト名}/xpoint/googleAuth?domain={X-point ドメインコード}&formId={フォーム ID}&routeCd={ルートコード}
```

- ① 新規書類提出 URL 上部のコンボボックスで「フォーム」を選択して、URL の {フォーム ID} に実際のフォーム ID を埋め込んだ URL を確認することができます。



The screenshot shows a web interface with three dropdown menus. The first is '経費管理', the second is '仮払申請書', and the third is '--ユーザ選択ルート--'. Below the menus, the URL 'https://example.com/xpoint/googleAuth?domain=example&formId=58' is displayed, with 'formId=58' highlighted in a red box. A 'コピー' button is next to the URL.

- ② ワークフローフォームの場合、新規書類提出 URL 上部のコンボボックスで、さらに「ユーザ選択ルート」を選択して、パラメータにルートコード付与した URL を表示することができます。



The screenshot shows a web interface with three dropdown menus. The first is '経費管理', the second is '仮払申請書', and the third is '部門長'. Below the menus, the URL 'https://example.com/xpoint/googleAuth?domain=example&formId=58&routeCd=route001' is displayed, with 'routeCd=route001' highlighted in a red box. A 'コピー' button is next to the URL.

### <ルートコードについて>

- ・ {ルートコード} は任意のパラメータです。URL に「ユーザ選択ルート」のルートコードをパラメータに追加することで指定したルートでフォームを開かせることができます。
- ・ ワークフローフォームで {ルートコード} を指定しない場合、承認ルートは「条件付きルート」で提出されます。
- ・ {ルートコード} は半角英数を指定して下さい。
- ・ 指定したルートが存在しない場合はエラーになります。


## 6.1.2. Google サイトでのリンク設定

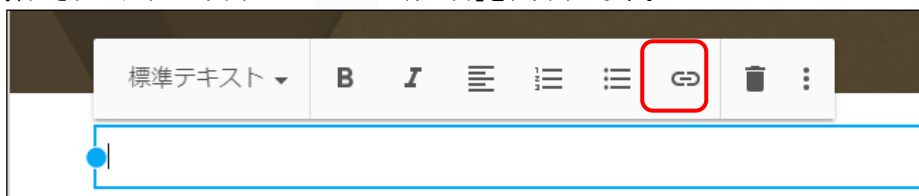
X-point のリンク用 URL を Google サイトのページに適宜設定を行います。

### 新しい Google サイトへの導入方法

- 1) 編集権限を所有するアカウントでガジェットを導入したいサイトに遷移します。
- 2) メニューの[挿入]>[テキストボックス]をクリックします。



- 3) 挿入されたテキストボックスの「 (リンク)」をクリックします。



- 4) 「テキスト」に任意のリンク文字列、「リンク」に X-point のリンク用 URL を入力し「適用」をクリックします。

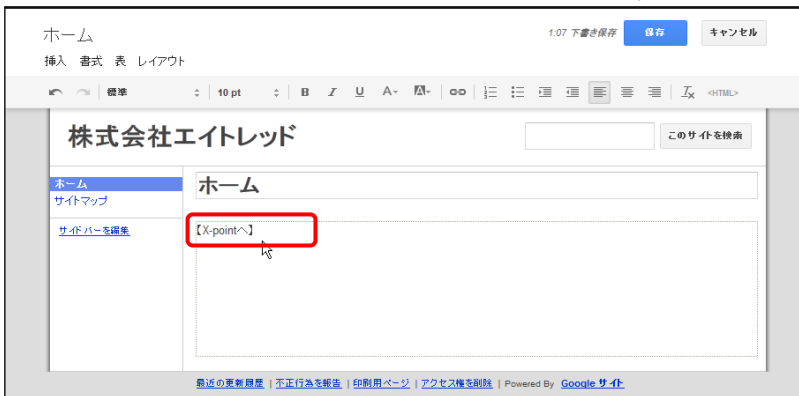



## 以前の Google サイトへの導入方法

- 1) Google サイトで「ページを編集」をクリックします。



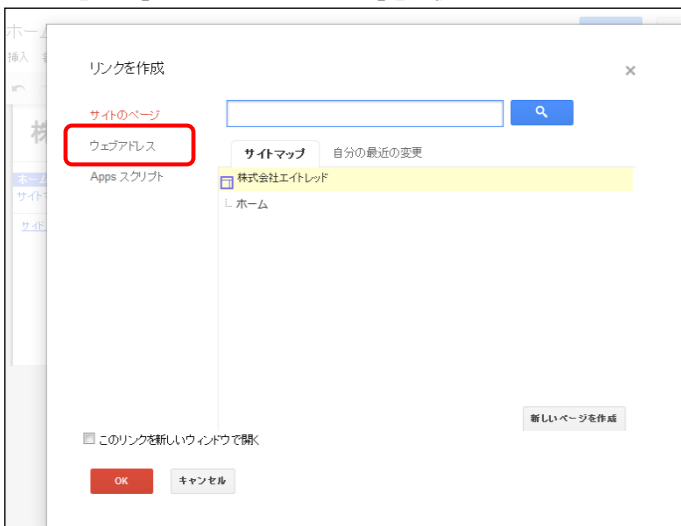
- 2) リンクを設置したい箇所に、リンク文字列を記述します。(例:【X-point へ】)



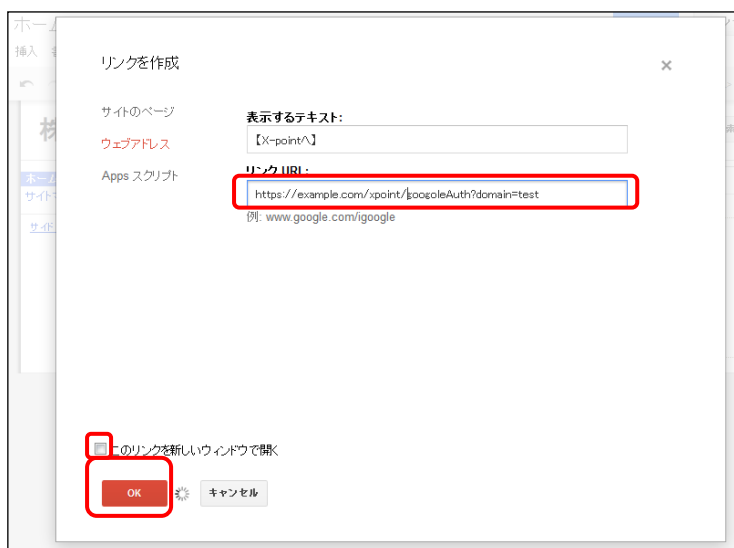
- 3) リンク文字列を選択した状態で、「 (リンク)」をクリックし「リンクを作成画面」を開きます。



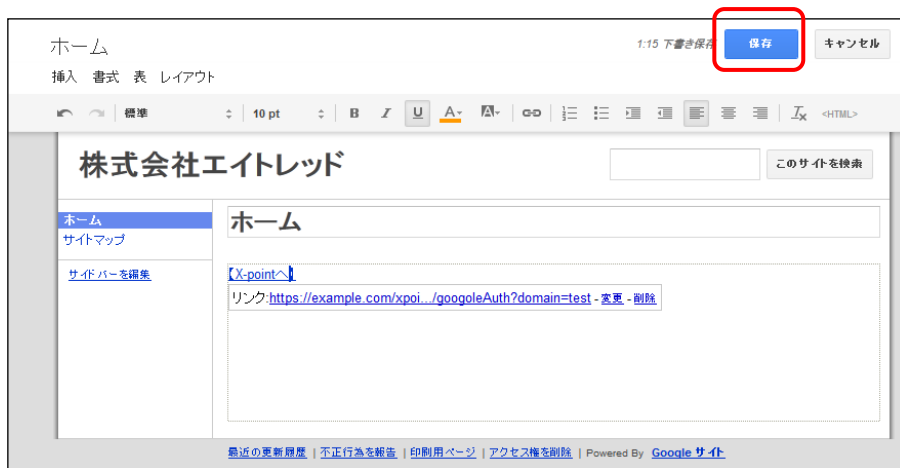
- 4) 「リンクを作成」画面で「ウェブアドレス」を選択します。



- 5) 「リンク URL」の項目に X-point のリンク用 URL を入力し「OK」をクリックします。  
※ リンク先を新しいウィンドウで開く場合は「このリンクを新しいウィンドウで開く」をチェックします。



- 6) 「保存」をクリックして設定を保存します。



## 7. シングルサインオンの利用

この章では Google Workspace から X-point をシングルサインオンで利用する方法について説明いたします。

### 7.1. Google サイトへログインして連携を利用

Google Workspace にログインして X-point をシングルサインオンで利用する方法を以下に示します

<注意事項>

シングルサインオンでの連携を利用するには Google Workspace にて事前に X-point のコンテンツ設定が必要です。「[6.Google 側のコンテンツ設定](#)」を参照して事前に設定を行ってください。

- 1) Google Workspace にログインします。
- 2) Google サイトの X-point への URL を配置したページを開きます。

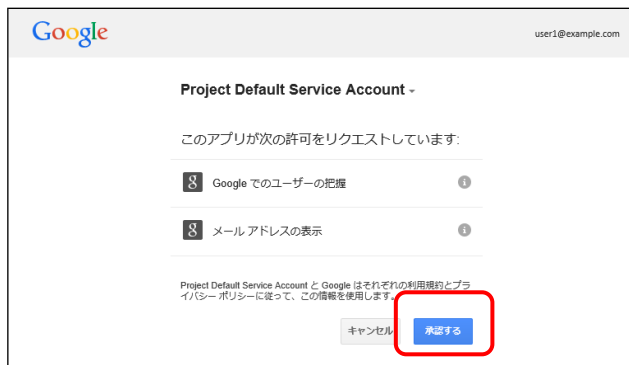
【Google サイト】

ホーム 2012/05/17 20:07 に更新しました



- 3) URL リンクをクリックします。
- 4) 初回アクセスした場合は以下の画面が表示されます。「承認する」をクリックします。2回目以降のアクセスはこの画面は表示されません。

(認証方式 : OpenID Connect)



#### ！注意事項

- この承認操作は Google Workspace から X-point を利用するユーザ毎に行います。
- この承認操作を行わないと X-point と連携を行う事ができませんのでご注意ください。

- 5) X-point の該当ページが開けば連携設定は成功です。

X-point 営業一課 勝 太郎 管理者メニューへ 個人設定 マニュアル

承認 2020/10/15 10:06:12(現在) 更新

-- フォームグループ --  
-- フォーム --  
-- STEP --

承認待ち	6	差し戻され	1	却下	0	回覧	0
下書き	51	保留	4	承認中(申請)	123	承認中(承認)	32
差し戻し	1	承認完了(申請)	0	承認完了(承認)	0		

件名 書類 提出者 日付

検索

フォーム -- フォームグループ --  
-- フォーム --  
提出者 -- ユーザグループ --  
-- ユーザ --  
承認状況 -- 承認状況 --  
件名 を含む

50件 検索

- 6) 以下のような画面が表示されるなど、X-point の該当ページが表示される場合は連携設定が正しく行われていません。正しくページが表示されない場合は「[9.1.Google Workspace から X-point の画面が表示されない](#)」を参照してください。

**i ログインできません**  
指定したドメインではGoogleApps連携が許可されていません。

## 8. その他の機能

この章ではシングルサインオン以外に実現できるその他の機能について説明いたします。

### 8.1. ガジェットを導入

X-point の「ワークフロー」と「グラフ」のガジェットを、Google Workspace の画面に表示することができます。

「Google サイト」



- ガジェットを利用するには、特定のガジェット用 URL を利用します。  
URL は X-point 管理者サイト、またはユーザサイトの個人設定にてガジェット用の URL が確認できますので、表示されている URL を参照して Google Workspace でガジェットの導入設定を行います。
- X-point にはガジェットの URL として「新しい Google サイト用」と「以前の Google サイト用」の 2 種類が用意されています。  
ガジェットを利用する Google サイトの種類に応じて使い分けてください。

#### ！注意事項

- ※ サードパーティ Cookie を無効にしているブラウザでは連携ガジェットを利用することはできません。  
必ず、サードパーティ Cookie を有効にしてください。無効にした場合 Google Site 側で接続許可されず 403 エラーが発生します。
- ※ 「以前の Google サイト用」のガジェット URL を利用する場合、  
インターネットを介して Google Workspace にガジェットの定義情報を X-point から提供する仕様で動作します。  
Google Workspace から「ガジェット用の URL」で X-point にアクセスするため、X-point がインターネットに公開されている必要があります。

#### 8.1.1. ガジェットのコンテンツを表示させるためには

X-point のガジェットを表示する場合、X-point の情報を取得するために内部的にシングルサインオンの認証が自動で行われます。そのため、事前にシングルサインオンの初回の承認操作を行っていない場合は、ガジェットからシングルサインオンの処理を行うことができずコンテンツを表示することができません。

事前に「7.1. Google サイトへログインして連携を利用」の手順を実施してください。

## 8. 1. 2. ガジェット用 URL の確認

ガジェット用 URL はドメイン管理で確認します。

- 1) X-point 管理者サイトへアクセスして、スーパーユーザまたはドメイン管理者でログインを行います。
- 2) 「ドメイン管理」→「Google Workspace 連携設定画面」を開きます。  
「ドメイン管理」の上部メニューの「Google Workspace 連携設定」リンク、またはドメイン設定変更画面の「Google Workspace 連携設定」リンクから遷移することができます。
- 3) 「Google Workspace 連携設定画面」の「Google Workspace 連携用 URL サンプル」を参照します(コピーしておくと後で便利です)

### 【Google Workspace 連携設定画面】

### 【ユーザサイトの個人設定へのガジェット用 URL 表示】

ユーザサイトの個人設定から「ガジェット用 URL」を確認できるようにする/しないを設定します。  
各ユーザがガジェットの導入作業を実施する際に、作業者がガジェットの URL を確認できる状態にしておく便利です。  
設定を変更した場合は保存ボタンを押下してください。  
「する」に設定した場合は、個人設定画面に「ガジェット URL 確認画面」へのリンクが表示されるようになります。

「ガジェット URL 確認画面」は、「ユーザサイト」→「個人設定」→「サブメニュー: Google ガジェット URL」から遷移することができ、ユーザが各ガジェットの連携用 URL を確認することができます。

### 【ガジェット URL 確認画面】

！ 注意事項

クエリ選択のプルダウンには、グラフの表示が許可された、種別が「クロス集計」「サマリ」のクエリが選択肢に表示されます。該当のユーザに実行権限がないクエリは表示されません。

#### 【ワークフローガジェット】

各承認状況のワークフロー書類件数を表示するガジェットの URL です。

(URL の形式)

##### 新しい Google サイト用

```
https://{ホスト名}/xpoint/googleAuth?domain={X-point ドメインコード}&gadgetId=wkfl
```

##### 以前の Google サイト用

```
https://{ホスト名}/xpoint/google/xml?domain={X-point ドメインコード}&gadgetId=wkfl
```

#### 【グラフガジェット】

集計クエリ(クロス集計・サマリ)のグラフを表示するガジェット URL です。

(URL の形式)

##### 新しい Google サイト用

```
https://{ホスト名}/xpoint/googleAuth?domain={X-point ドメインコード}&gadgetId=chart&queryCd={クエリコード}
```

##### 以前の Google サイト用

```
https://{ホスト名}/xpoint/google/xml?domain={X-point ドメインコード}&gadgetId=chart&queryCd={クエリコード}
```

グラフガジェット URL 上部のプルダウンで「クエリ」を選択して、URL の {クエリコード} に実際のクエリコードを埋め込んだ URL を確認することができます。

支払依頼書\_集計

新しいGoogleサイト用

https://example.com/xpoint/googleAuth?domain=example&gadgetId=chart&queryCd=query17

コピー

以前のGoogleサイト用

https://example.com/xpoint/google/xml?domain=example&gadgetId=chart&queryCd=query17

コピー

#### ！注意事項

クエリ選択のプルダウンには、グラフの表示が許可された、種別が「クロス集計」「サマリ」のクエリが選択肢に表示されます。

### 8.1.3. Google サイトでのガジェット導入

#### 新しい Google サイトへの導入方法

X-point のガジェットを新しい Google サイトの任意のページに設定します。

<手順>

- 1) 編集権限を所有するアカウントでガジェットを導入したいサイトに遷移します。
- 2) メニューの[挿入]>[埋め込み]をクリックします。



- 3) [埋め込みコード]をクリックします。



- 4) ガジェット用 URL を利用した HTML 形式のコードを入力します。

(入力コードの形式)

```
<iframe width="横幅" height="縦幅" src="ガジェット URL"></iframe>
```

(入力例)

```
<iframe width="300px" height="300px"
  src="https://example.com/xpoint/googleAuth?domain=example&gadgetId=wkfl">
</iframe>
```

※ width(横幅)、height(縦幅)は、それぞれピクセル単位(px)で指定し、任意のサイズに調整してください。

- 5) [次へ]をクリックします。



- 6) X-point のガジェットが表示されることを確認し、[挿入]をクリックします。

ウェブからの埋め込み

URL 埋め込みコード

更新

承認待ち	1075 件
差し戻され	0 件
却下	303 件
回覧	8238 件
下書き	27 件
保留	354 件
承認中(申請)	1162 件
承認中(承認)	600 件
差し戻し	1 件
承認完了(申請)	19 件
承認完了(承認)	80 件

② 意図したとおりに表示されない場合 キャンセル **挿入**

- 7) 設定箇所にガジェットが挿入されます。

ATLED サイト名を入力

# 株式会社エイトレ

更新

承認待ち	1075 件
差し戻され	0 件
却下	303 件
回覧	8238 件
下書き	27 件
保留	354 件
承認中(申請)	1162 件
承認中(承認)	600 件
差し戻し	1 件
承認完了(申請)	19 件
承認完了(承認)	80 件

(ワークフロー ガジェット)

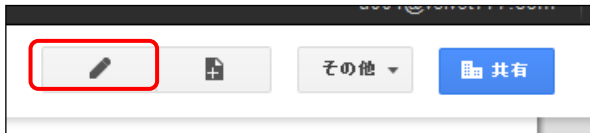
(グラフ ガジェット)

## 以前の Google サイトへの導入方法

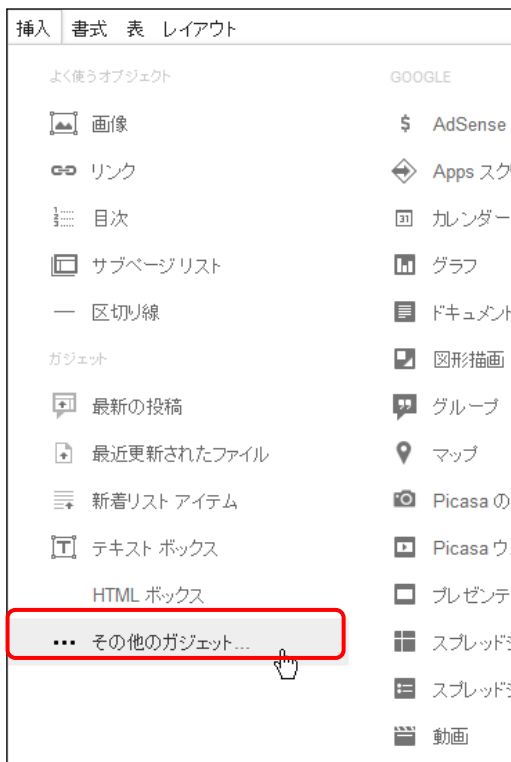
X-point のガジェットを以前の Google サイトの任意のページに設定します。

<手順>

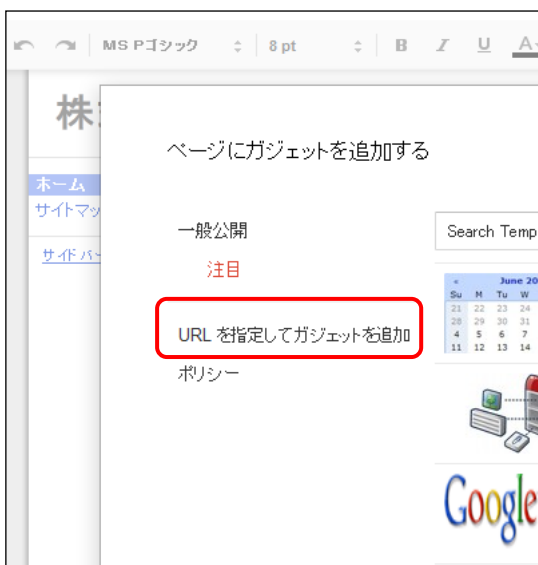
- 1) サイト(マイサイト)で「ページを編集」ボタンをクリックします。



- 2) 挿入>「その他のガジェット」を選択します。



- 3) 「ページにガジェットを追加する」画面の「URL を指定してガジェットを追加」をクリックします。



- 4) 「ガジェット用 URL」を入力して「追加」ボタンをクリックします。

ページにガジェットを追加する

一般公開  
注目

URL を指定してガジェットを追加  
追加するガジェットの URL を入力してください。

http://

追加 キャンセル

URL を指定してガジェットを追加  
ポリシー

- 5) 追加先の画面に適したレイアウト設定を行い、プレビュー後に「OK」ボタンをクリックします。

ガジェットを設定

表示:

幅: 270 ピクセル

高さ: 280 ピクセル

必要に応じてガジェットにスクロールバーを表示する

ガジェットの周囲に枠線を付ける

ガジェットにタイトルを表示: ワークフロー

OK キャンセル ガジェットをプレビュー

- 6) ページ編集画面で「保存」ボタンをクリックします。

ホーム 19:54 下書き保存 保存 キャンセル

挿入 書式 表 レイアウト

標準 10 pt B I U A- A+ ☰ ☷ ☹ ☺ ☻ ☼ ☽ ☾ ☿ ☽ ☾ ☿ <HTML>

株式会社エイトレッド このサイトを検索

ホーム  
サイトマップ  
サイドバーを編集

ホーム

Google ガジェット

7) 設定箇所にガジェットが表示されます。

ホーム 2012/05/17 19:55に更新しました

株式会社エイトレッド

ホーム (ワークフロー ガジェット)

ワークフロー

ステータス	件数
承認待ち	0件
差し戻され	0件
却下	2件
回覧	0件
下書き	0件
保留	0件
承認中(申請)	17件
承認中(承認)	0件
差し戻し	0件
承認完了(申請)	0件
承認完了(承認)	0件

(グラフ ガジェット)

4半期受注実績

担当者	10	11	12
坂本一馬	800,000	1,000,000	400,000
藤 太郎	700,000	400,000	2,000,000
織田信介	600,000	2,100,000	700,000
西本武則	700,000	300,000	1,600,000
木戸武史	1,500,000	800,000	400,000

## 8.1.4. ガジェットについて

- ワークフロー ガジェット

- ・ 連携ユーザのワークフロー書類件数を承認状況ごとに表示します。
- ・ 件数更新間隔は、ドメイン管理設定の「HOME画面のワークフロー件数/自動更新間隔」に準じます。

ワークフロー-詳細設定	
代理申請-承認時の印影	<input checked="" type="radio"/> 代理対象者の印影を表示 <input type="radio"/> 代理者の印影を表示(印影右上に「(代)」のマークが表示されます)
コメント入力ポリシー	<input type="radio"/> 編集権限のある状況でのみ入力可能 <input checked="" type="radio"/> 誰でも自由入力可能
再申請ポリシー	<input checked="" type="radio"/> 利用しない <input type="radio"/> 利用する
HOME画面のワークフロー件数	更新間隔 <input type="text" value="10"/> 秒 自動更新 <input type="text" value="1"/> 分 ※0の場合自動更新を行いません。 ※自動更新時、ワークフロー件数の更新間隔の時間が経過していない場合は件数は更新されません。
回答書類の保持日数	<input type="text" value="9"/> 日

- ・ 「更新」ボタンで件数を更新することができます。

ワークフロー	
	<input checked="" type="button" value="更新"/>
承認待ち	0 件
差し戻され	0 件
却下	2 件
回覧	0 件
下書き	0 件
保留	0 件
承認中(申請)	17 件
承認中(承認)	0 件
差し戻し	0 件
承認完了(申請)	0 件
承認完了(承認)	0 件

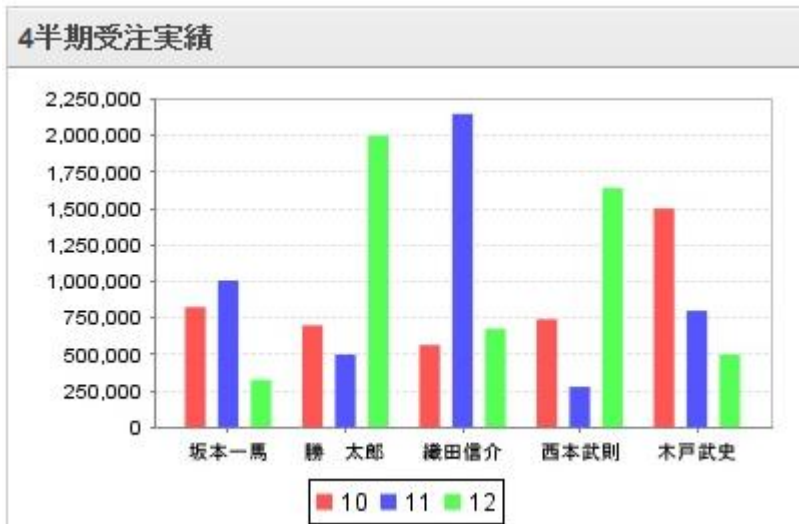
- ・ 承認状況及び件数のリンクをクリックすると、クリックした承認状況の「承認」画面を新たに開くことができます。

ワークフロー	
	<input checked="" type="button" value="更新"/>
承認待ち	0 件
差し戻され	0 件
却下	2 件
回覧	0 件
下書き	0 件
保留	0 件
承認中(申請)	17 件
承認中(承認)	0 件
差し戻し	0 件
承認完了(申請)	0 件
承認完了(承認)	0 件

→

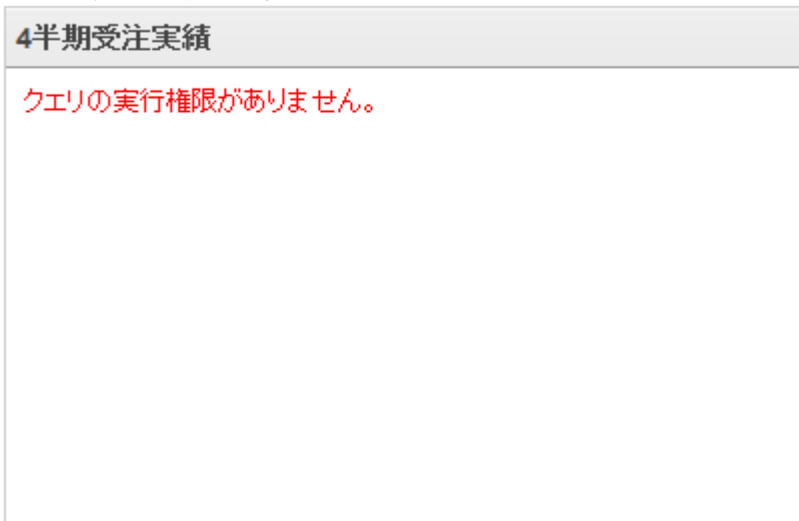
- グラフ ガジェット

- ・ クエリ管理で設定した集計クエリのグラフを表示します。



- ・ クエリの実行権限があるユーザのみグラフの表示が可能です。

(クエリの実行権限がない場合)



## 9. 困ったときは

Google Workspace 連携の利用に関する問題解決の参考となる情報について説明します。

### 9.1. Google Workspace から X-point の画面が表示されない

#### 9.1.1. 「現在、X-point をご利用いただくことができません。」と表示される

- ・ X-point が正常に稼働していない可能性があります。  
しばらく待ってもメッセージが表示される場合は、弊社サポートまでお問い合わせください。

#### 9.1.2. 「連携設定情報の Google Workspace ドメイン名が正しくない可能性があります。」と表示される

- ・ X-point の Google Workspace 連携設定画面の「Google Workspace 連携 > 連携先ドメイン」に、連携する Google Workspace と同じドメイン名が設定されているかご確認ください。

#### 9.1.3. 「連携が許可されていない Google Workspace ドメインです。」と表示される

- ・ X-point の Google Workspace 連携設定画面の「Google Workspace 連携 > 連携先ドメイン」に、連携する Google Workspace と同じドメイン名が設定されているかご確認ください。

#### 9.1.4. 「指定したドメインでは Google Workspace 連携が許可されていません。」と表示される

- ・ X-point の Google Workspace 連携設定画面の「Google Workspace 連携」が「しない」に設定されている可能性があります。連携を行う場合は「する」に設定してください。
- ・ 連携 URL の「&domain=」で指定したドメインコードが X-point に存在しない可能性があります。連携させる X-point ドメインのドメインコードと連携 URL のドメインコードが一致していることを確認してください。

#### 9.1.5. 「指定したドメインが X-point に存在しない。または、連携設定が未設定の可能性があります。」と表示される

- ・ 連携 URL の「&domain=」で指定したドメインコードが X-point に存在しない可能性があります。連携させる X-point ドメインのドメインコードと連携 URL のドメインコードが一致していることを確認してください。
- ・ ドメインコードが一致している場合、X-point の Google Workspace 連携設定画面の「Google Workspace 連携」が「しない」に設定されている可能性があります。連携を行う場合は「する」に設定してください。

#### 9.1.6. 「X-point に連携ユーザが存在しません。」と表示される

- ・ 連携しようとした Google Workspace のユーザが X-point に存在しない、またはユーザ情報が同期されていない場合に表示されます。X-point と Google Workspace の双方に登録されたユーザ情報の「ログイン ID(X-point)」と「ユーザ名(Google Workspace)」を一致させてください。

#### 9.1.7. 「401. That's an error. Error: invalid\_client」 と表示される

- ・ X-point の Google Workspace 連携設定画面の「クライアント ID」に誤りがないかご確認ください。

#### 9.1.8. 「Google Workspace 連携設定のクライアントシークレットに誤りがないかご確認ください。」と表示される

- ・ X-point の Google Workspace 連携設定画面の「クライアントシークレット」に誤りがないかご確認ください。

#### 9.1.9. 「400. That's an error. Error: redirect\_uri\_mismatch」 と表示される

- ・ Google Developers Console で登録した「リダイレクト URI」と、X-point の Google Workspace 連携設定画面の「リダイレクト URI」が一致していない可能性があります。「リダイレクト URI」が一致するように、Google Developers Console で「リダイレクト URI」を修正してください。

## 9.2. ガジェットに X-point のコンテンツが表示されない

---

### 9.2.1. 何も表示されない、または「このコンテンツはフレーム内で表示できません」と表示される

- ・ シングルサインオン初回アクセス時の承認が済んでいない可能性があります。  
「8.1.1. ガジェットのコンテンツを表示させるためには」の項を参照してください。
- ・ Google Workspace と X-point の通信プロトコル(http/https)が一致していない可能性があります。  
アクセスする Google Workspace または「ガジェット用 URL」のプロトコルを一方に合わせてください。
- ・ SSL 環境の場合、利用ブラウザで証明書のインポートが済んでいない可能性があります。  
証明書のインポート後に再試行してください。
- ・ 1つのブラウザ上に、複数の Google アカウントでログインしている場合、ユーザ選択画面が表示されます。  
ガジェット URL をブラウザのアドレス欄に入力してユーザ選択画面に遷移する場合、  
利用しないアカウントはログアウトする。ブラウザを再起動する。ブラウザのキャッシュをクリアするなどの操作を行ってください。

### 9.2.2. ガジェットに「Google Workspace のユーザ情報が取得できませんでした」と表示される

- ・ Web ブラウザとして Safari や Firefox をご利用の場合、Cookie の設定内容によって連携が正常に行われない場合があります。以下のようにブラウザの設定を変更してください。

<Safari>

「設定」>「プライバシー」>「Cookie をブロック」⇒「しない」を選択します。

<Firefox>

「メニューボタン」>「オプション」>「プライバシー」⇒「履歴を記憶させる」を選択します

または、

「記憶させる履歴を詳細設定する」を選択⇒「サイトから送られてきた Cookie を保存する」をチェック

⇒「訪問したサイトのみ許可」または「常に許可」を選択します。

## 9.3. Google Workspace サービスに関して

### 9.3.1. Google Workspace のサービスが利用できない

- Google Workspace 連携を行っている場合、X-point のフロントサイトの単独利用はできません。フロントサイトを単独で利用する場合は「4.1.シングルサインオンの設定」を参照の上、シングルサインオンの利用を解除してください。
- X-point フロントサイトを単独で利用する場合は、X-point ユーザのパスワードが必要です。X-point で個別に設定の上ご利用ください。  
＜参考情報＞ 「5.2.3.ユーザ情報のパスワードについて」

## 9.4. 連携設定後に X-point の URL を変更する場合の対応方法が分からない

Google Workspace 連携の設定完了後、X-point のアクセス URL が変更になる場合、以下の連携設定の修正を行う必要があります。

### 9.4.1. Google Developers Console の認証情報設定の修正

認証情報の「承認済みのリダイレクト URL」を修正します。

- ブラウザを起動し、以下の URL にアクセスします。  
<https://console.developers.google.com/>
- 連携する Google Workspace の管理者でログインします。  
※ 既存の認証設定を作成した同じアカウントユーザです。
- メニューの「認証情報」をクリックします。
- 該当の OAuth 2.0 クライアント ID の [編集アイコン]をクリックします。
- 「承認済みのリダイレクト URL」の FQDN を変更後の X-point のアクセス URL のものに修正し、[更新]ボタンをクリックします。

※ リダイレクト URL の書式: `https://{FQDN}/xpoint/googleAuth`

### 9.4.2. Google サイトに設置したコンテンツの Google Workspace 連携の URL の修正

Google サイトに設定した連携リンクやガジェットの設定に含まれる X-point の URL を修正します。以下の章の説明を参考に、変更後の X-point のアクセス URL に再設定してください。

[「6.1.Google サイトへの URL リンク設置」](#)

[「8.1.ガジェットの導入」](#)

## ■改訂履歴

改版	改版内容
2021年04月01日版	初版
2021年05月11日版	動作環境・軽微な記載内容の修正
2022年03月14日版	マニュアルタイトル等の各部の名称を変更
2024年11月25日版	8.1 ガジェットの導入 注意事項にサードパーティ Cookie に関する記述を追加
2025年07月22日版	3.3 OAuth 同意設定画面が独立したサービス Google Auth Platform に変更されたため内容を修正